# 北方領土を知るつどい

## 皆さんの力で島の返還を

社団法人北方領土復帰期成同盟上川地方支部と町の主催による「北方領土を知るつどい」が11月22日、保健福祉センターみなくるで、千里大学（高齢者大学）の授業と兼ねて行われ、大学の学生や一般の町民など約50人が参加して開催されました。

つどいでは、同支部協力員会議の高塚正勝副会長が講師を務め、「終戦前の島と自由訪問で見た島の現況」と題し講演が行われました。高塚氏は、歯舞群島の水晶島で生まれ、幼少期は終戦まで島で暮らし、当時の生活や、昆布に代表される海産物や魚介の豊富な自然の様子などを紹介されました。

また、終戦後抑留された体験談を交えながら、戦後の国交回復後の自由訪問で見た、今もなお変わらない島の自然や島の人たちの生活の様子なども話されました。

高塚氏は、国の外交交渉がなかなか進展しない現状において、「国民運動が最も重要な活動です」と述べられ、返還運動の長期化から北方領土に対する関心が薄れてきており、現在の期成同盟の会員も高齢化し、人数も減少してきていることから、多くの皆さんの領土返還運動への理解と協力を訴えられました。

その他、ＤＶＤによる北方領土の歴史やロシアとの自由訪問の交流の様子が上映され、戦前の島の様子などのパネル展が行われました。

# 高齢者の孤立を防ぎ支え合う社会を

## 第11回南富良野町社会福祉大会

町社会福祉協議会（岩永廣一郎会長）が主催する第11回南富良野町社会福祉大会が、12月8日に保健福祉センターみなくるで開催され、町内の福祉施設関係者、町老人クラブの会員や一般町民ら約２００名が参加し行われました。

この大会は隔年で行われ、オープニングでは、まちの合唱サークル「ゆかいな仲間の合唱団」によるコーラスが行われ、会場内は和やかな雰囲気の中で一体感が醸し出されました。

式典では、町内の福祉関係団体の福祉活動功労者や職員など28名の表彰と高額寄附者２名に表彰状などが岩永会長から贈呈されました。

講演では、東京大学大学院教育研究学科牧野篤教授による「人が生きる社会と生涯学習～弱くある私たちが結びつくこと～」と題し、これからの日本が向かう更なる高齢化社会において、孤立することなく人と人が結びつく社会・地域の仕組みづくりなどを、大学の実践例を紹介しながら説明されました。

また、昨年度本町などを会場にして行われた東京大学市民後見人養成講座の修了生有志による「成年後見制度知ってあんしん劇場」と題した寸劇が行われ、高齢者世帯に悪徳業者が訪問し、高額な商品を売りつける状況を再現しながら成年後見人制度の重要性を訴えていました。





# 南富良野短歌会 新春を詠む

新しき年のはじめは希望もち雪の社の階段のぼる　相川敏治

孫からの初メールにはひい孫の顔が大きく写されている　阿部巌

豊作の餅を供えて新年を家族と迎える田は雪の中　大居貞子

離れ住む大学生の孫の居ていかにしているこちら真冬日　鍛治場渉子

心して厳冬越えん九十代の父母と新たに見よう春の花　菊池仁子

負の遺産子々孫々に押しつけて幾百年の遠き果てまで　後藤敏江

八十路坂険しく続く道のりも痛む膝腰に耐えて越え行く　小林吉枝

初春の穏やかなる日々白き雲今日も動かず山を覆いて　佐藤すみゑ

新春のあまねく光はわが家に飛びこみてくる眩きばかり　鈴木文代

それぞれに励む孫等と久々に遭つて楽しむ新年迎えて　津田みね

新しき年を迎えて万物の上に災害なきこと祈る　橋見さえ子

古庭の桜の老木落としたき枝そのままに年改まる　三宅スエ

掛け軸を梅の花絵に掛け替えて明けたる年も恙なきよう　山内千代

## シリーズ 学校だより⑫⓪

各学校の取り組みを紹介します。

### ▶▶幾寅小学校▶▶▶

**地域の教育資源を生かした教育活動**

幾寅小学校では、南富良野の自然や施設などの教育環境を生かして体験的な学習を進めています。そのひとつとして、総合的な学習の時間で学ぶ環境教育があります。

３年生は、上川総合振興局森林課のご協力をいただき、森林を題材として学習します。春には、校地内の樹木の木肌に触れたり葉の匂いをかいだり、葉の形や葉脈を紙に写し取ったりしながら木の名前や特徴を学びました。秋には、「エジンバラ公の森」での植樹をはじめ、様々な木の種や昨年植樹した木の生長の違いを観察したりネイチャーゲームをしたりしました。

４年生は、イトウを題材として、川の環境について学習します。こちらは、町の職員である大光明さんや「イトウの会」の皆さんのご協力をいただいています。空知川上流部で川に棲む生物の生息状況と水との関係を学んだり、イトウの産卵床で稚魚を観察したり、また、教室でもイトウの稚魚やドジョウ、ウグイなどを飼育しています。

５年生は「幾寅の自然の秘密を解き明かそう」、６年生は「幾寅のよさをしろう！ひろめよう！じっかんしよう！」をテーマに個人やグループで課題を決めて幾寅の野や山や川での多様な体験をしています。

この他に、５・６年生はかなやま湖でのカヌー、１～４年生はカーリングを体育の授業として行っています。カヌー少年団やゆっくカヌー部、カーリング少年団に所属し、将来の国体やオリンピック選手を目標にする子もおり、今後の成長・活躍が楽しみです。

このような学習を通して、地域に誇りと愛着を持つ子どもが育っています。

△パンケヤーラ川で
水棲生物を観察する４年生